

地域と共に子どもを育てる

世田谷区立給田小学校 学校運営委員会通信

12月10日、風のない快晴のなか、今年もちつき会が行われました。

ボイラーから立ち上る湯気と蒸されたもち米の良い香りに迎えられ登校してくる子どもたちは、ボイラーの前で立ち止まり見上げながら「すごい湯気だね」「いいにおい」「いつ食べられるのかな」と言い、なかなか教室に行こうとしません。そんな姿を見ると本当に楽しみにしていてくれることが分かり、嬉しくて気合が入ります。

給田地域伝統の「かけつき」は4人でつきますが、4人の息が合うと臼の中でおもちがくるくと回りまわります。そのためにはつき手がつく順番も大事になってきます。左足は前、右手は上、左手は下で左腰のところを、そして右回りについていきます。はじめは慣れずに戸惑っていたYAMATOのお父さん方も千歳民俗資料保存会（以下、保存会）の方がたからの助言で回数を重ねるごとにスムーズな動きになりました。

準備ができる子どもたちは学年ごとに見学に来ます。蒸し上がったもち米、「かけつき」、「あげつき」、出来上がったおもちと行程を見てから教室に戻り、温かいおもちを食べます。しかし、ただおもちを食べる日で終わってしまうのではなく、「かけつき」を説明を聞きながら見ることで、伝統を受け継ぎ、繋いでいくことを学ぶ良い機会になっています。

途中つき手が担任の先生に代わると、子どもたちは心配したり応援したり一段と盛り上がりがあります。子どもたちの声援を背中を受け、慣れないながらも一生懸命杵を扱う先生がたの顔も笑顔が溢れていました。

おもちを食べ終わった後、メッセージカードを持って来てくれた子どもたちから



青穂会のみなさんによるかけつき。子どもたちの「よいしょ！」のかけ声に気合が入ります。

「かけつき」、「あげつき」、出来上がったおもちと行程を見てから教室に戻り、温かいおもちを食べます。しかし、ただおもちを食べる日で終わってしまうのではなく、「かけつき」を説明を聞きながら見ることで、伝統を受け継ぎ、繋いでいくことを学ぶ良い機会になっています。

途中つき手が担任の先生に代わると、子どもたちは心配したり応援したり一段と盛り上がりがあります。子どもたちの声援を背中を受け、慣れないながらも一生懸命杵を扱う先生がたの顔も笑顔が溢れていました。

おもちを食べ終わった後、メッセージカードを持って来てくれた子どもたちから

今年もおいしいおもちをありがとうございました 千歳民俗資料保存会「もちつき会」

平成28年度 第7号
平成29年3月22日
世田谷区立給田小学校
学校運営委員会
委員長 稲井 達也



つきたてのおもちはよくのびる！

「もつと食べたかった」「おいしかった」「ありがとうございました」「言われると、「また来年も頑張ろう」という気持ちになり、気がつくとい腰の痛みもどこかにいってしまっていました。



たくさんのメッセージが届きました。

毎年無事にもちつき会を行うことが出来るのは、経験豊富な保存会の方がたに支え、助けていただいているからです。そしてお休みにもかかわらず朝早くからお手伝いくださる地域やYAMATOの方がた、素晴らしい連携でおもちの味付けやパック詰めをしてくださる係のお父さん・お母さん、どの方がたも欠くことが出来ない大事な存在です。今年も「子どもたちのために」本当にありがとうございました。

PTA会長

林 智美

写真協力

給田小PTA

給田小PTA広報委員会

今年度活動報告

学校運営委員会では、今年度以下の活動を行いました。

- ・学校運営委員会通信発行
 - ・給食補助ボランティア
4月13日～4月28日
延べ145名
 - ・水泳見守りボランティア
6月20日～9月15日
延べ200名
 - ・1年生着替えボランティア
6月23日～7月19日
延べ80名
 - ・夏季休業中水泳受付ボランティア
7月21日～8月4日
延べ131名
 - ・夏季休業中水泳見守りボランティア
7月21日～8月4日
延べ125名
 - ・図書室開放ボランティア
7月21日～25日
中学生延べ15名
 - ・7月26日～8月2日
8月23日～26日
延べ58名
 - ・補習ボランティア
7月21日～25日
中学生延べ41名
 - ・漢字検定
7月8日、1月28日開催
集計・当日延べ84名
- みなさまのご協力に心から感謝申し上げます。来年度も引き続き、よろしくお願いたします。

世田谷区では、地震などの大規模災害が発生し自宅での居住が困難な場合、または二次災害を受ける可能性がある場合、一時的に避難生活を行う場としてすべての区立小中学校に避難所が開設されます。

10月29日、給田小学校において「避難所運営訓練」が行われました。

1人でも多くの方に避難所運営を知ってもらおうと、給田小では2年前からPTA役員全員が訓練に参加しています。今年度は、さらにPTA係（以下、係）や給田小を支えるお父さんの会「YAMATO」（以下、YAMATO）のみなさんにも参加していただき、昨年より一歩前進した訓練を行いました。

「避難所運営訓練」を行うにあたり、給田町会・西住宅自治会役員・給田小PTA役員などで構成



ビデオを観たことで、備蓄の必要性を感じられたようです。



減災・防犯アドバイザーの菊池頭 太郎さんにも参加していただき、総評をしていただきました。

されている「避難所運営本部員」は責任者会議や勉強会を重ね、訓練当日、円滑に訓練が行えるように備えています。

例年、「総務・情報」「避難所」「救護・衛生」「給食・物資」の4つの担当に分かれ、行政の指示のもと仕事内容を確認することとまっていた訓練でしたが、今年度は、運営本部員のみで「避難所開設訓練」を行った後、当日参加した係やYAMATOのみなさんに「避難者」となっていたいただき、「避難者受入訓練」とし、それぞれの配置場所にある資機材や仕組みについて説明を行いました。その時の説明を一部、紹介します。

※参考：「平成28年度 給田小避難所運営訓練 勉強会」資料



地域とともに守る！

設・避難者受入訓練～

総務・情報担当

被災直後は校内の安全点検や受け入れ準備、その後は避難者名簿の作成・管理、避難所内部における他担当との調整、地区まちづくりセンターとの連絡などを行います。

記載例	避難者カード																														
<table border="1"> <tr><td>避難者名</td><td>山田 太郎</td></tr> <tr><td>性別</td><td>男</td></tr> <tr><td>年齢</td><td>45歳</td></tr> <tr><td>住所</td><td>世田谷区 給田 1-2-3</td></tr> <tr><td>職業</td><td>会社員</td></tr> <tr><td>家族構成</td><td>妻1人、子2人</td></tr> <tr><td>備考</td><td>アレルギー：卵アレルギー</td></tr> </table>	避難者名	山田 太郎	性別	男	年齢	45歳	住所	世田谷区 給田 1-2-3	職業	会社員	家族構成	妻1人、子2人	備考	アレルギー：卵アレルギー	<table border="1"> <tr><td>避難者番号</td><td>001</td></tr> <tr><td>氏名</td><td>山田 太郎</td></tr> <tr><td>性別</td><td>男</td></tr> <tr><td>年齢</td><td>45</td></tr> <tr><td>住所</td><td>世田谷区 給田 1-2-3</td></tr> <tr><td>職業</td><td>会社員</td></tr> <tr><td>家族構成</td><td>妻1人、子2人</td></tr> <tr><td>備考</td><td>アレルギー：卵アレルギー</td></tr> </table>	避難者番号	001	氏名	山田 太郎	性別	男	年齢	45	住所	世田谷区 給田 1-2-3	職業	会社員	家族構成	妻1人、子2人	備考	アレルギー：卵アレルギー
避難者名	山田 太郎																														
性別	男																														
年齢	45歳																														
住所	世田谷区 給田 1-2-3																														
職業	会社員																														
家族構成	妻1人、子2人																														
備考	アレルギー：卵アレルギー																														
避難者番号	001																														
氏名	山田 太郎																														
性別	男																														
年齢	45																														
住所	世田谷区 給田 1-2-3																														
職業	会社員																														
家族構成	妻1人、子2人																														
備考	アレルギー：卵アレルギー																														

避難者カードの把握のために使用さ

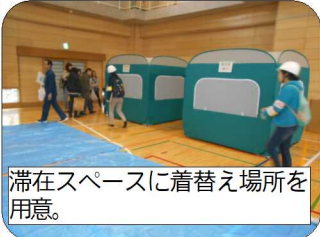
始めに「避難者カード」に必要な事項を記入します。カードは親族や外部からの問い合わせや面会の際、また避難者数の把握のために使用さ

避難所担当

被災直後は避難者滞在スペースの準備や避難者の誘導と部屋割り、その後は避難所内の環境整備や生活ルール作りなどをを行います。

避難所内の生活は自宅での生活と比べてとても窮屈で不便利です。1人あたりのスペースも、豊約1枚分程度しか確保できない可能性もあります。

あまり知られていませんが、犯罪も多いため、さまざまなルールを作って全員で守る必要があります。

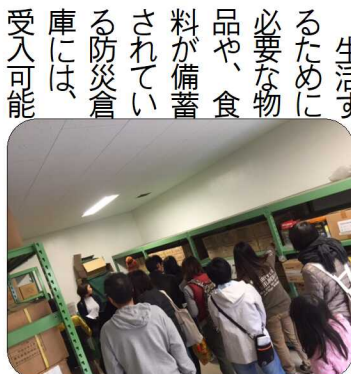


滞在スペースに着替え場所を用意。

クラブ開放室前の情報提供コーナー

滞りなく滞在スペースとして最初に開放されるのは体育館です。体育館がいっぱいになれば順次普通教室も開放さ

れていく予定です。クラブ開放室は情報提供コーナーや避難所運営本部の拠点となります。また、特設公衆電話（5台）の設置（主事室付近）も行います。



備蓄倉庫：思っていたよりも備蓄量が少なく、驚いている方も。

生活するために必要な物品や、食料が備蓄されている防災倉庫には、受入可能としている避難者最大2168人、1600人の約1日分の備蓄しかありません。食料などは、自宅避難者にも支給されます。避難者の方には、自宅より生活物資を持ち寄っていたことになり、普段から各ご家庭での食糧・飲料水の備蓄が重要です。

参加者感想

★本当に災害があった場合、東京の人口では避難することよりも自分たちで3日間をどう過ごすかが決め手と分かったことが大変勉強になりました。「助けてくださいではなく」助けて協力する、これをモットーにしたいと思います。(4年保護者)

★初めて知ることが数多くありました。これまで避難所の事など考えたこともなく、他人事ではかありませんでした。自助共助がいかに大切であるか知ることができ、まずは家族を守るために、どの様に行動すべきか考える良い機会となりました。(2年保護者)

★避難所の実際の運営されている雰囲気わかり、とても勉強になりました。なるべく避難所に頼らず、家でなんとかできるような備蓄について考えなおす必要があると改めて考えました。自分が避難所でお手伝いなどしている間に子供が自分でトイレなどできるように、しっかりと教えておかないといけないなと思いました。家族にも今日知った事を伝えたいと思います。(2年保護者)

★一人で暮らすお年寄りが多く寂しい、怖いなどで避難所に

来られると思うと、動ける私たちは日頃から自分で出来ることは自分でしようと思ってきました。(2年保護者)

★災害時は避難所に来ればなんとかなるという思いがあったが、実際の避難所生活がとても過酷なものになることがわかり、自宅で生活できるよう準備したいと強く思った。(2年保護者)

★自宅での備蓄を1週間以内に整えようと感じ、実行していきたいと思えます。子どもの安全を守るために自分が知識を得ていきたいと思えます。(6年保護者)

★何よりもまず、自宅での安全対策や食料などを用意しておくことが重要だと感じました。(5年保護者)

★避難所とは支援を受けられる場所ではなく、やむを得ず自宅で過ごせなくなった人々が集まって協力して生活を少しでも負担なく送れるようにする場所ということを感じました。まずは自分・家族を守った上で協力できるように勉強していきたいです。(5年保護者)

★避難所には水・食糧が潤沢にあるわけではなく、個々人の持ち寄りが重要なこと、避難所運営には避難者の自主的な参加が必要ながよくわかりました。(3年保護者)

子どもたちを家族を ～給田小学校避難所開

救護・衛生担当

被災直後は応急手当スペースの確保や応急救護、その後はマンホールトイレ(水道不通時に使用する震災用井戸を活用したトイレ)の設置、避難所の衛生管理などを行います。

大震災が発生すれば、水道が壊れて学校内の水洗トイレを使用できなくなる可能性があります。そのような時のために、マンホールトイレを設置します。

校庭の西側一輪車置き場の前に、トイレ設置用のマンホールが10個並んでいます。その下には下水管までつながっている管があり、井戸のポンプを漕ぐことにより排泄物を流す

給食・物資担当

被災直後の混乱がやや収まってから活動を開始し、備蓄物資の配給、救援物資の手配や保管、炊き出しなど食料配付体制の組織化などを行います。

炊き出しとは、防災倉庫内の食料を避難者に提供することです。倉庫内のアルファ米や避難者が持ち込んだお米を発

発電機とバーナー(実際には体験してもらいます)で調理し提供する

ことが、炊き出しの一例です。



ことができる仕組みになっていますが、使用する時には下の管に井戸の水を貯める必要があります。全力でポンプを漕いでも20〜30分かかります。避難者200人にトイレは10個。待ち時間は1時間以上になることもあると言われてます。また、下水管が断絶してしまつとマンホールトイレも使用できなくなつてしまいます。最悪の場合も想定し、「ご家庭内で簡易トイレの備蓄をしていた」と避難所でのトイレについて困らずに済むと考えられます。



はガスや電気が使えなくなる可能性があり、ガソリンを燃料として動く発電機を使用し、電気を起こします。お米を炊く時には発電機で起こした電気と灯油を燃料として火を起こします。

避難所内での飲料水として受水槽に水が保存されています。受水槽の水は、浄化されているものですので、そのまま飲み水として利用できますが、避難者の人数によっては不足する可能性も考えられます。避難所に来なくても、数日・数週間生き延びられるように各ご家庭で飲料水の確保をお願いします。



幼小給食交流

2月6日、7日、5年生と給食を食べるため、給田幼稚園から年長組の園児が給田小にやって来ました。

給食前の4時間目、園児たちと「じゃんけん列車」や「なんでもバスケット」など、準備した遊びで一緒に楽しく交流し、お互いの緊張をほぐします。



少しでも楽しんでもらえるようにと、「なんでもバスケット」では、「園児は椅子に座るか、帽子を被った5年生の膝の上に座ればOK」というように、ルールを変えていました。

遊びの時間が終わると、いよいよ給食の準備が始まります。「トイレに行きたい」という園児に、何人もお兄さんが



園児に目線を合わせるようにかがんでいます。

ついて行ってあげる姿や、手を洗いに

行く時も5年生が手を引いて、いろいろ教えてあげている姿がちらで見られました。



「大丈夫？」そんな言葉が聞こえてくるようです。

給食の配膳では、お盆の持ち方を教えてあげたり、「どれくらい食べられる？」と一人ひとりにやさしく聞いたり、お盆が重たいだろうと席まで手を添えて手伝ったり、みんないつもよりお兄さん、お姉さんらしく、率先して動いていました。

4年生の3学期から交流を続けてきた5年生と給田幼稚園の年長児たち。この給食が最後の交流となります。1年間の交流で5年生は園児との接し方を身につけ、4月に6年生に進級した際、最高学年として1年生のお世話をします。きっと、1年生にやさしく寄り添う6年生になるでしょう。

今年度 退任する委員



H25・27・28年度
林 智美

初めて会議に参加した時には、そうとうたる顔ぶれに迎えられ、話している内容も全く分からず「なんて場違いなところに来てしまったんだろう」と思っていました。分からないなりに話を聞いていたうちに、学校が今後どうしているのか、委員会として子どもたちのためにどのようなことをしているのかが少しずつ分かるようになってきました。取材をすることで普段見ることのない子どもたちの顔を見られるのもとても楽しかったです。

学校運営委員会がお願いしているボランティアにたくさんの方々が協力してくださいますが、ここ数年、お仕事をされるお母さんも増え、人数が足りない時も出てきました。25年度にしようと思っただけで出来なかった「漢字検定ボランティア」を係にして確実に「再開する」ということが今年度叶い、今後も継続していきたいので、少しはお役に立てたかなと思っっています。

皆様の「協力に感謝いたしております。ありがとうございました。」
「学校運営委員会通信」に掲載されている写真（個人が特定できる）等を含む個人情報、
「学校運営委員会通信」2号から6号（議事録号）をご覧になりたい方は、副校長までご連絡ください。

一年間を振り返って

給田小学校に着任し、約1年が経ちました。私が給田小学校にやってきた初日の4月1日に、校長室の扉を開けると、学校運営委員の皆さんと学校支援コーディネーターの皆さんの温かい歓迎を受けました。なんと心強い給田小学校の応援団がいるのだらうと驚きました。

給田小学校は地域運営学校（コミュニティ・スクール、以下CS）として今年で10年を迎え、世田谷区ではCSとして実績があるということも分かりました。私がこの一年間に感じた給田小学校のCSとは「よりよい学校にしよう」という目的を一つにして、地域・保護者・学校が共に考えている」ということです。

それを感じた第一歩は入学したての1年生の給食開始に、「給食ボランティア」が集まったことです。なんと学校運営委員長の稲井先生が自ら参加し、1年生の給食が円滑にすすむように支援してくださっていました。これにより、子どもが小学校生活の第一歩を楽しく過ごすことにつながっています。

他にも給田小学校を支えてくれるボランティアの皆さんは、CSとしての蓄積であることが分かりました。子どもが毎朝楽しみにしている「わんわんパトロール」や「古民家での季節を感じさせてくれる取組「漢字検定」等、他の学校にはない給田ならではの取組があり、繋がる給田、強い給田の意味であることが、この一年間で見て、確かめて、感心して、感謝しているところです。ありがとうございました。

学校長 猪刈 恵美子